

日本医史学雑誌 第四十五卷第四号 目次

原 著

田原結節の発見者 田原淳 補遺	富田 達男	五〇三
医学館の学問形成(二) 寛政の改革期の官医たちの動向―『よしの冊子』の記事から―	町 泉寿郎	五〇五
近代日本の対中医療・文化活動 ―同仁会研究(二)―	丁 薈	五〇三
九州における近代整形外科の祖、住田正雄(二八七八―一九四六)の生涯	小林 晶	五〇三
中川修亭の『麻薬考』の書誌学的研究―四種の写本の検討	松木 明知	五〇五

広 場

マンドラゴラ異聞	泉 彪之助	六〇一
----------	-------	-----

記 事

消 息

第二一回北陸医史学同好会例会・総会	岩治 勇一	六〇七
洋学史一九九九年研究大会	松木 英治	六〇七

紹 介

宇和島医師会医学史編集委員会著『宇和島藩医学史』	萩山 正治	六〇八
--------------------------	-------	-----

日本医史学雑誌第四十五巻総目次

松木明知編著『中川五郎治書誌』……………

医史学文献目録 平成九(一九九七)年……………

順天堂大学医史学研究室編……………

深瀬 泰旦……………

六〇九

〈本号の表紙絵〉

スウェーデンのウプサラ大学の解剖講堂

ウプサラ大学の中心的建物のひとつに、1633年にたてられた Gustavianum がある。この建物は3階建てで中央にドーム型の部分がある。Olof Rudbeck という人が、オランダのライデン大学の解剖学階段講堂に感銘して構想をたて、1662年にドーム部分を建物の中央に建設した。

図の如く、ドームの下が解剖講堂になっており、中心部に卵円形の解剖台がおかれている。しかし回転式ではない。

解剖台を8角の壁がとりかこみ、その上に古代ローマの円形劇場のように6段の階段が屹立している。見学者は200人以上収容できるが立見である。最上段には著名人のための簡素なベンチ席があり、しばしば複数の著名人が来場した。

刑死者の解剖については、1663年から1766年までの間に、わずか10回の解剖示説であった。それも局所解剖にとどまったという。

1766年から1841年にかけて、このドーム部分は図書館に利用され、その後、階段は移動されて動物学博物館となった。しかし1950年に至って以前の階段講堂の姿に復した。見学可能。

(この縦断面図はウプサラ大学の見学パンフより借用した。)

(中西 淳朗)